

この月刊サワネを、お知り合いの方に見せてあげてください、きっと喜んでいただけます。

『「働き手不足 1100 万人」の

衝撃』 古屋星斗他著 プレジデント社

269 頁 1600 円(税別)

リクルートワークス研究所というところが、2023 年 3 月に労働者の需要と供給についてのシミュレーションを行いました。その結果のひとつが、労働力の不足は、2030 年に 341 万人、2040 年には 1100 万人であるということです。数字だけでは、どのような状況なのかがわかりません。実際の生活にどのような影響があるのか、本書は教えてくれます。また対処法も示してくれます。「こんなになるのか」と驚きながら読んでいただきたいと思います。以下ご紹介します。

★概略

- ・給料をいくら上げても必要な人を採用できない
- ・採用するのに必要なコストが高すぎて、必要な生活維持サービスが廃止される
- ・生活維持サービスの水準が低下する
- ・必要な人手が足りないために、廃業せざるをえない企業が増える

★生活維持サービスの充足率(労働供給÷労働需要)2030 年

75%以下:31 道府県

75%というのは、たとえば「週 4 日必要なサービスにスタッフ不足で 3 日しか通えない」状況。岡山県は 2030 年は 91%、2040 年は 70%。

★人材確保は最優先の経営課題

- ・老朽化や技術者不足で水道インフラ満身創痍
- ・観光飲食は、企業の 5 割が「正社員不足」
- ・整備士が足りない。修理は 1 か月後。
- ・6 割の施設で薬剤師不足。地方、中小ほど傾向顕著に。

- ・公務員:民間企業における若手の取り合いが加速し、結果としてその競争についていくことが

できていない公務員の人材獲得が困難になっている。

★労働力率{(働いている人数+完全失業者の人数)/15 歳以上の人数}:日本は決して低くない。労働供給はすでにパツパツな状態。つまり、「労働力率を高め、多くの人に労働に参加してもらおう」ことのキャパシティはすでに限界に達しつつある。

日本:80.0%

ドイツ:78.7%

イギリス:78.3%

アメリカ:73.4%

★生活が大変すぎて、仕事どころではなくなる。「荷物が届くかどうか」が、人の住める地域を決めるようになる。日本の4分の1の地域は事実上、荷物の発送も受取もできず、居住不可能になる。

・介護現場で介護スタッフ不足が深刻化し、欠員が常態化。高齢者自身や家族が対応せざるをえず、家族は仕事をやめることに。

・建設作業従事者が慢性的に不足:地方部の生活道路は穴だらけ、橋梁の崩壊が相次ぎ、移動にかかる時間が増加する。

・医療スタッフ不足:病院は長蛇の列。救急車の立ち往生が常態化。

・仕事困難:普通に働こうと思っても十分な生活サービスを受けられず、生活が破綻し、仕事どころではなくなってしまう。

★労働が楽しくなる

楽しくないと労働供給が増えないからだ。事業所を小洒落たコワーキングスペースのようなものに改装しているのは、「自社で働くのを少しでも楽しくしよう」というトレンドのはしりだ。

いかがでしょうか?とんでもない世界が目前に迫っています。私たちは何をすればいいのでしょうか?

この月刊サワネを、お知り合いの方に見せてあげてください、きっと喜んでいただけます。

値上げラッシュ

原材料価格や物流費の高騰を受け、食品やサービス、電気・ガスなど幅広い分野で値上げの動きが広がっています。値上げは、人手不足対策のひとつでもあります。最新の記事をまとめました。

(<https://www.nikkei.com/topics/22040103>)

★値上げラッシュ

- ・JR九州、バス運賃平均 10～14%上げへ 直方線など 3 路線
- ・2 月食品値上げ、4 カ月ぶり 1000 品目超 トマト不作影響
- ・明治村、入場料 25%値上げ 4 月から大人 2500 円に
- ・3 月の電気代、東京や中部など大手 5 社で 7～133 円値上げ
- ・小林製菓、「ブルーレット」など 15%値上げ
- ・森永製菓、「チョコボール」など菓子 50 品値上げ 4 月に
- ・山梨中央銀行、7 月に手数料改定 ATM 利用は値上げ
- ・砂糖卸値 43 年ぶり高値 原材料高、菓子需要回復で
- ・にんべん、かつお節・だし 4 月値上げ 原料価格高騰で
- ・大塚食品、「ボンカレーゴールド」など 3 月から値上げ
- ・ヤマト運輸、宅急便 2%値上げ 4 月から一部商品で
- ・「はなまるうどん」16 日に値上げ うどん 10～80 円高く
- ・郵便値上げ「今年 10 月に」 日本郵政、封書やはがき
- ・市民マラソン、9 割が参加費引き上げ 出走希望者 3 割減

ひとり時間

労働者不足、値上げなど、今は決してやさしい時代ではありません。なんとか生き抜いていく方法を見つけなければなりません。その方法を見つけるヒントを与えてくれるのがひとり時間ではないかと思います。今は、SNS など人とつながることが重視され、つながっている時間が多くなっています。いろいろな情報、正しい情報、間違った情報、正しいのか間違っているのかわからない情報がいっぱい私たちに入ってきます。いろいろな人がいろいろな話をします。そして、ますますどうしていいのかわからなくなってしまう。だからこそ、ひとり時間が大切なのだと思います。

『週末ひとり時間』という本には、一人になる時間の作り方が紹介されています。

忙しくてひとり時間なんか取れない、という方が多いと思いますが、そのような方には「スキマ時間をつかうよう勧めています。こんな感じで作ります⇒「用事で出かける際に、予定時間の15分か30分前に現地の近くに行き、カフェで一息つく。

また、一日のスケジュールのなかでひとり時間を作りやすいところを見つけて、そこでひとりになるように日程を作っていくということも言っています。

何をするかについては人それぞれ。そのリストを作るということもひとり時間にすることの一つです。朝の散歩、神社仏閣へのお参りも例にあります。

最近ますます話題になっているマインドフルネスでも一人の時間を大切にしています。その方法の一つはとても簡単です。歩き方に気をつけるだけです。歩くとき、一步一步に、そして呼吸に意識を向けるのです。そうすることで、貴重な一人の時間を確保できます。